



常一小だより

令和4年3月24日

松戸市立常盤平第一小学校

児童数 97名

令和3年度末特別号

学校HPアドレス <http://www.matsudo.ed.jp/toki1-e/>



別れの春、そして出会いへ…

平松 澄明

明日から春休みとなります。先週の卒業式は、春らしい陽気の下で、心温まる素晴らしいものとなりました。そして今日は、修了式と辞校式。進学や進級の区切りは、別れの季節でもあります。「会者定離」の言葉どおり出会った者は互いに高めあい、そしてそれぞれの成長のために離れるものです。そして、この別れが来月訪れる新しい出会いへとつながります。これまでの学校運営へのご理解とご協力に心より感謝するとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお祈りします。令和4年度も、さらなる常一小の発展に向けて、心ひとつに…。 がんばろう 常一小！

お世話になりました

本年度末をもって転出する職員は、以下の10名です。現時点では、それぞれの異動先などについてはお知らせできませんが、常一小での経験や皆様方と培った子どもたちの思いを次の任地でも生かしていくことと思います。在籍期間中の皆様のあたたかいお心遣いに感謝申し上げます。ありがとうございました。

<令和3年度末転出職員>

配布された学年だよりでご確認ください



学校評価アンケートの結果を受けて

3月14日付のお便りで、学校アンケートの集計結果をご報告しました。本校の教育活動を肯定的に評価していただき、うれしいと思う一方で、このご支持を損なわないよう身の引き締まる思いです。一方で、「掃除や仕事」「忘れ物」「家庭学習」「体力向上」等では、保護者や子どもたち、職員の二者以上が共通して不十分と判断している傾向にあることにも、注目したいと思います。過日別実施した「子どもの外遊びを通じた地域住民とのかかわりに関する調査」の結果で、平日に外遊びをほとんどしない児童が半数に及ぶという結果となっていました。コロナ禍や地域の安全等が影響しているのかもしれませんが、他地域と比較するとかかなり高い割合になっていました。こうした共通の課題や顕著な傾向のものについて共通理解の上で協力して、改善を図っていくことが、常一小の子どもたちの成長につながると信じます。

まん延防止等重点措置 解除ですが…

感染の懸念がなくなったわけではありません。基本は、「凡事徹底」。自分の健康は自分で守ることで。3月18日付けのお便りでお知らせしたとおり、春休み中も…、

- ① 変わらぬ健康・衛生管理
- ② 健康カードに毎日記入
- ③ 万一の時の学校への速やかな連絡をお願いします。

始業式に健康カードを集めますので、忘れずに持参させてください。

交通安全はみんなの願い



明日から始まる春休みを、楽しく過ごすためにも交通安全に気をつけましょう。

右の図は、学区内の交通安全上注意を要する箇所です。

- ① 幅の広い歩道と下り坂による自転車との接触の危険
＝ けやき通り（その他でも起伏があり坂が多いので注意！）
- ② 交通量が多く速度を出す自動車が多いことによる危険
＝ 学校西側の道路 けやき通り・ゆりのき通り 等
- ③ 信号機が設置されていても感じる危険
＝ 正門前の通りの歩者分離信号と押しボタン信号
※ 歩者分離の信号は赤青の切り替わりのタイミングが
違うために車が「見切り発車」しやすく歩行者も勘違
いしやすい。また、信号の間隔が短いと「赤信号にか
からないように…」とスピードを出す運転者もいる。
- ④ 見通しの良い直線道路で速度を出す自動車が目立つ危険
＝ 学校のプール裏の道路



計画的に作られた常盤平団地とその周辺は、交通安全上の配慮がなされていて、他の地域に比べても「安全」な地域です。でも、「絶対」はあり得ません。「自分の身は自分で守る」という考えに立って、子どもも大人も自分自身の交通安全に対する意識を高めていくことも必要です。

- ① 自転車のルールやマナーを守っていますか？子どもでも加害者となり責任が問われます*。
- ② 横断歩道のないところで道路を横断していませんか？
- ③ 自動車を運転される方は、「ゼブラストップ」など歩行者に配慮した運転をしていますか？

学校でも春休みを前に、交通安全指導を実施します。子どもも大人も地域の一人としてお互いの命を守る気持ちをもって行動をし、特に大人は子どもの手本となるよう行動しましょう。

* 千葉県における自転車保険加入義務化について：令和4年7月1日から「自転車を利用する全ての職員、児童生徒は自転車損害賠償険へ加入する（義務化）」となります。「自転車保険義務化 千葉県」で検索して、千葉県のホームページで確認できます。

「黒板アート in 松戸」のサプライズイベント

去る14日、「松戸まちづくり会議」主催の黒板アートプロジェクトが実施されました。松戸一小さな常一小を盛り上げて、子どもたちの卒業や進学を祝い、前途を祝してエールを送ろうと黒板アート作家すずきらなさんら東京芸術大・聖徳大の学生17名が、その前日に集まって制作をしました。

当日は、制作者と子どもたちの交流の後、子どもたちの手で消されました。これは、「作品は消えてもアートの楽しさは子どもたちの心に刻まれる。」という黒板アートの信条に基づくものです。子どもたちのためにボランティアで制作にあたってくださったプロジェクトメンバーの皆様には心より感謝申し上げます。詳細は、本校ホームページでご覧いただけます。

